

なきごえ

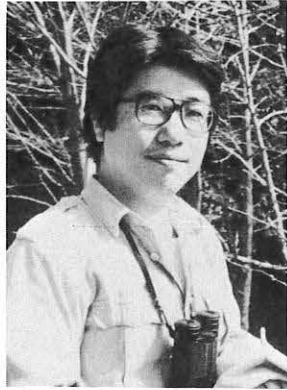


1984

6

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私



平松 道夫

あなたはあの知恵者として知られるソロモン王が、魔法の指環の助けをかりて動物たちと話をした、という伝説をご存知でしょうか。

ローレンツ

『ソロモンの指環』

表紙カバー

旧約聖書を読みちがえたこの伝説を現実のものとしたその人が、コンラート・ローレンツです。私は学生時代に彼の書いた『ソロモンの指環』などを読み、ものいわぬ、いや言っているのだらうけれども一般の人間にはわからないコミュニケーションの方法を理解し、動物と近くなれたローレンツにいたく感動しました。小さい頃に読んだドリトル先生のお話を思い出しながら、次第に動物に興味を引かれて行ったのです。

とはいっても大阪市内に生まれ育ちましたので、動物園で見る以外の動物はほとんど目にすることはありませんでした。動物に関するそうした興味を満たしてくれるものはテレビでした。「野生の王国」をはじめ、さまざまなドキュメンタリー番組が放映され、時間の許すかぎりできるだけ見るようになりました。しかし、その多くは外国のものであり、日本に生息している野生の動物は一体どんな生活をしているのだろうか、テレビのように身近にそうした動物が見られるのだろうかと考えようになりました。

そうした矢先に、大阪府下の野生生物の観察方法を教えてくれる会（大阪自然環境保全協会のナチュラルリスト講座）の存在を知り、早速入会したのです。そこでまずわかったことは、日本の野生生物、とく

にけものは、よほど運がよくない限りその姿をほとんど見ることがない、ということでした。それだけ日本の野生動物は、人間をおそれているということがわかったのです。

私は現在人間の行動、とくに集団行動などを研究対象とする社会学を勉強しています。社会学と非常に近いところに人類学という分野があります。社会学も人類学も、人々の日常の行動やその周辺のことから詳しく観察することによって、いわゆる人間の文化を明らかにしていこうとしています。人類学はまた、高等霊長類の研究手法から非常に大きな刺激を受けています。一方は人間、他方は動物と、対象としている生き物は異なるが、観察調査を行なう方法や態度にはいくつかの共通点がみられ、私の勉強と趣味の間で、相互に刺激を与えあっているのです。

科学や技術の発展と共に学問も専門分化し、同じ学問分野でも少し専門が違えば互いに全く理解できないといったことがあるなかで、社会科学と自然科学という、いわば水と油といえるような研究分野で、互いに共通点が見い出せたことは、私の人生にとって非常なプラスとなりました。野生生物観察法を学ぶことで、専門分野にこだわらない広い視野でものごとを見ていこうと考えるきっかけとなったのです。

また、一億人以上の人口がひしめきあう狭い国土に生息する野生生物たちは、何らかの形で人間とかわりながら生きているのだということも学びました。つまり、人間の行動が直接間接に動物たちの生活、時には生命までも左右しているということなのです。もはや自然を破壊するなど叫ぶだけではなく、積極的に人間の力で自然を再生していかなければならない時代だと思えるのです。

人間行動の勉強と動物行動の勉強、この全く異なる対象は、いま私の頭の中では同一の俎上に載っているのです。
(甲南大学文学部 講師)



なきごえ6月号もくじ	
動物と私	2
“リュウキュウイノシシのウリ坊”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
中国との動物交換	6・7
里山の動物	8・9
動物相談室 ⑦	10
動物園ニュース	11

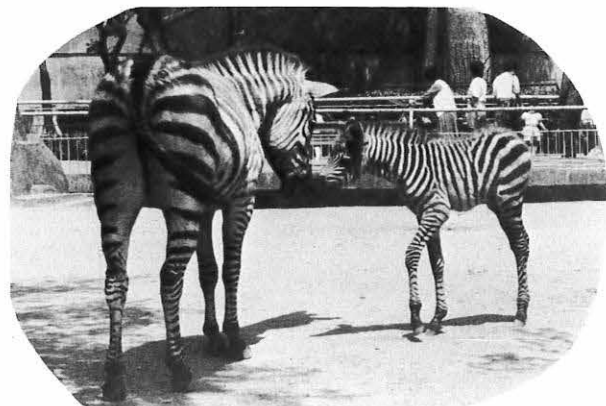
表紙の写真説明
“ヘラサギ”
ヨーロッパからアジア、アフリカ北部、インドにかけて分布しています。サギという名前がついていますがトキの仲間です。
(撮影：大野 尊 信)

“リュウキュウイノシシのウリ坊”
4月10日、リュウキュウイノシシに5頭の赤ちゃんが誕生しました。ニホンイノシシとは別種とされるリュウキュウイノシシですが、やはり子供にはウリのようなシマがあります。(撮影：長瀬 健二郎)

動物園グラフ

特集“動物園はベビーラッシュ”

昨年のクロサイ、カバ、キリンなどのおめでたに続き、今年も動物園では可愛い赤ちゃんが誕生しています。今回は心温まる親子の姿を特集します。

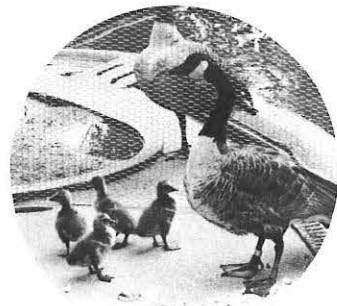


* グラントシマウマ
5月4日にメスのキャンディーがオスの赤ちゃんを出産しました。



* ムーアモンキー
2月13日、クロザルとムーアモンキーの間にオスの赤ちゃんが誕生しました。

* カナダガン
5月11日に放養舎でカナダガンのヒナが4羽ふ化しました。



* ハイイロカンガル
1月6日に袋の中に仔が入っているのを確認。母親のアンネの袋の中でスクスク成長しています。



赤ちゃん誕生



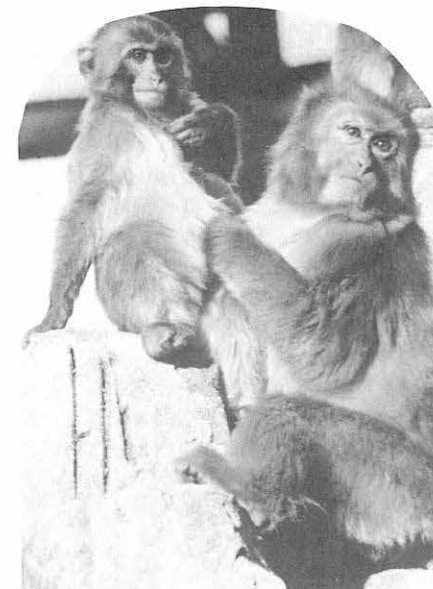
* バーバリーシープ
バーバリーシープ山は今年6頭の赤ちゃんが生まれとてもにぎやかです。



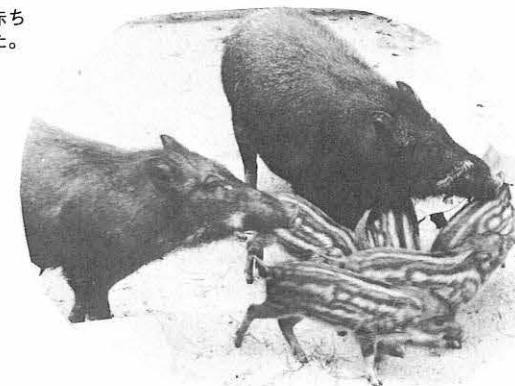
* キョン
5月6日にオスの赤ちゃんが誕生しました。



* ブラックバック
3月23日にメスの赤ちゃんが誕生しました。



* ニホンザル
南園のサル山では現在3頭の赤ちゃんが誕生しています。



* リュウキュウイノシシ
4月10日に5頭のうりん坊が誕生しました。

(撮影：農本武志)

4・5月の動物園日記

- 4 / 11. ブラックイグアナ2頭を爬虫類舎に展示しました。
- 4 / 12. 水禽放養舎のカナダガンが4卵目を産卵しました。
- 4 / 13. ニホンジカの4尖の雄の両角が落ちました。4月6日退院したばかりのトキイロコンドルの雌が元気食欲不振のため再入院することになりました。
- 4 / 14. 中国上海動物園に贈呈されるラマ1番とダチョウ1番が、明日日本を出発するため輸送オリに移しました。

- 4 / 15. 贈呈されるラマ、ダチョウとともに当園から2名が中国上海動物園に出張しました。
- 4 / 16. フタコブラクダの雄“ムサシ”は、体調がすぐれないため4月8日より治療をしていましたが、さらに集中的に治療を行なうため室内に隔離することになりました。
- 4 / 17. 仲のよいモイロペリカンの雌とインドトキコウの雄が、シュバシコウの巣の1つを占拠してしまいました。
- 4 / 19. フタコブラクダのムサシが治療もむなしく化膿性肺炎で死亡しました。
- 4 / 20. コブハクチョウが、南園池の中の島に1個産卵しました。

- 4 / 21. キーウイの体重測定を行ないました。ニュージーランド大使が来園され見学されました。
- 4 / 23. アオサギおよびコサギが、それぞれ第3巣目の巣づくり準備をはじめました。
- 4 / 25. 本年初のニホンザルが1頭生まれました。
- 4 / 26. 昨年に引き続き、キングペンギンが1羽ふ化しました。ふ化日数は53日でした。
- 4 / 28. 水禽放養舎で抱卵中のカナダガンがマゼランガンに追われるため、周囲を金網で囲みました。
- 4 / 29. 春の動物園まつりが本日より始まりました。
- 4 / 30. 保護で元気をとり戻したトビを1羽放鳥し

- ました。
- 5 / 1. アカエリヒレアシギを1羽保護しました。
- 5 / 3. バーバリーシープが1頭生まれました。
- 5 / 4. グラントシマウマの“キャンデイ”が雄の子を1頭生みましたが、子が堀によく落ちるので母子を室内に隔離しました。
- 5 / 5. ニジキジが産卵しても抱卵しないため人工ふ化させることにしました。
- 5 / 7. オオルリ1羽とフクロウ1羽を保護しました。
- 5 / 8. キョンが1頭生まれました。
- 5 / 9. 定例飼育研究会が行なわれました。シマウマ母子を運動場に出しました。

中国との動物交換(上)

今年は、大阪市が中国の上海市と友好都市を結んで10周年という記念すべき年で、これを祝賀する行事が上海市で盛大に行なわれることになり大阪市の代表団をはじめ各種の団体が4月15日から17日にかけて訪中しました。この中には、スポーツ、書道のほか、港湾、経済、産業、労働、地域婦人日中友好協会等の大きな団体があり、我々は動物と植物の交換訪中団というミニ団体に参加しました。

上海市との動物の親善交換は、友好都市を結んだ初年度から行っており、今回で5回目というのですが、今回は、記念行事ということもあり、植物の交換が加わり、公園局の佐藤建設部長を団長とする植物と動物の2人づつという編成となったのです。

植物の方は、桜の苗木200本をすでに3月に空輸済みで、動物の方は、第



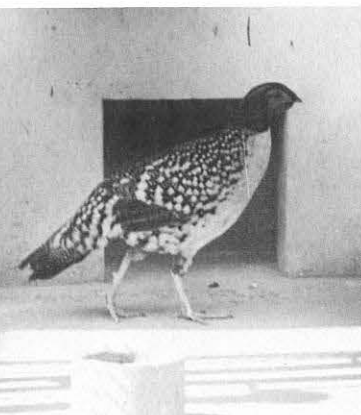
贈呈式

5回目の交換として、昨年10月コウノトリ1番が上海から大阪に贈られてきており返礼としてダチョウ1番とラマ1番を贈ることになり4月15日、我々は同じ便で大阪空港から出発しました。

ラマは、問題ないのですが、ダチョウは、首が長く航空機の貨物室の高さが160センチが限度ということで檻の問題でかなり頭を悩ませたものでした。早朝の出発ということで前日から輸送檻に収容しなければならず、160センチの高さの檻を作ったのは、24時間以上もダチョウの首をおさえたい状態にしておかねばならないので、これではちょっとダチョウには酷であり、そこで、頭をひねって、重箱のように上げ下げのできるフタを考案したのです。飛行機に積み込む寸前までは、高さを210センチにしておくのですが、機内では、160センチまで下げようにした檻を作ってやりました。大阪から上海までは約2時間の空の旅ですから、ダチョウにとっても、この間が辛抱のしどころ。でも天井はドンゴロス張りですからクッションになり頭を打ちつけることはなく、無事に上海に到着しました。上海空港から動物園までは、20分もかからないほどで、ダチョウやラマも全く問題なくケロツとした顔をしており、我々を安心させてくれました。

私達は市内のホテルに入る前に動物園で休けいをしていましたが、ダチョウもラマも動物園に到着したのを確認してほっとしていたのですが、ホテルに入ってから、ラマだけはその後直ちに動物検疫場に送られて1カ月の隔離検疫に入るとの事を聞かされ、寝耳に水の話でびっくりしてしまっただけです。

ここでは、4日後に控えた動物交換の主役が一枚欠けることになり、一同ショックを受けました。そこで、通訳を介して上海側に以前のキリンの例もあり何とかセレモニーだけでも出せないのか、あるいは、日本でも野生動物ではまれに検疫場を動物園内に認定してもら場合もあり、何とかして欲しいと上海側に強く要望したのですが、やはり検疫は国の機関の決定権であるから、とのことで受け入れてもらえませんでした。上海市も国際都市であり有蹄獣については、検疫をかつちりしていること、上海市が横浜に有蹄獣を送ったときも30日間の検疫があったことなどを理由とされました。従来から日本側の検疫体制の方が進んでいて、我々も49年当時北京市から贈られたモウコレイヨウについても1カ月の隔離検疫があるなど、そのきびしさを経験しているのですが……。ラマについては、日本側で7日間の輸出検疫を受けて積み出したのもので、中国側が書き送ってきたなかにも過去1年以内に口蹄疫などの伝染病の発生がなかったことや、結核の皮内反応の陰性などをすべてチェックしてきたのですが、その文書の中には、何も中国側の検疫期間の有無などはなかったのですから。天王寺動物園でこの点の調査に念の入れ方が、足らなかったのだといういわれ方をするとどうにも空しさを感じるものがあるのです。



ジュケイ

まあ、我々のこんな思いがあるにもかかわらず、中国の人々は実にゆったりとしたもので大した問題ではないらしく、無事着いたのだから、動物園に展示するのが1カ月早いか遅いは頓着していないふうでした。そんなわけで19日の本番は、上海動物園の友好の広場で、両市長の出席のもとに桜の苗木の植樹式のあと、ダチョウ舎前に場所をうつしてテープカットが行なわれました。ダチョウはすこぶる元気で草の生えた広い放飼場で愛嬌をふりまいていました。フェンスには、その日にお目見えできなかったレア夫婦の大きな写真が額に入れてかざられていました。大島市長夫妻、市会議長夫妻、それに、汪上海市長、施平上海市人民代表大会副主任、呉園林局長、叶園長に我が佐藤団長も交じって、にこやかにしばし動物の話題に花が咲いたようでした。上海市長は公務繁忙のため、めったに動物園に来たことがないとかで、上海動物園にとってもこの日の

上天気と同じで晴れがましい一日になったようです。

上海動物園は中央に天鶴湖という広い池をとり入れた広い動物園で、分類学的展示法をとり入れています。ゾウ、類人猿、パンダ、ライオン、トラ、クマなど、かなりの種類にわたって無柵放養式の獣舎となっており、さらに獣舎の周りをその動物にあった樹木を植えていること。例えば、パンダ舎は竹林



5年前に贈ったキリン

にかこまれ、ゾウ舎周辺にはシュロ、ヤシというふうで植栽による環境作りに努力しているふうでした。ペリカンは、湖の島にコロニーを作って、産卵していました。ハイロペリカンは主でしたが、我々が見学中には、1羽が上空を飛んでいるところでそれは見事なものでした。親鳥は、羽根を切羽してあるとのことですが、ここでふ化した6羽が現在、こうして飛翔を見せてくれるということでした。この池の他の岸には、サギ類のコロニーもあり、営巣期に入っていました。キジ舎では、以前から見たかったジュケイが見られたことは大変うれしく思いました。これは中国でも珍貴動物に入っているキジの仲間ですが、繁殖が良好だということで、後に行った繁殖センターでも飼育中でした。

鶴舎では、タンチョウ、マナヅル、ナベヅルなどの他に、オグロヅルを展示していました。コウノトリは繁殖場に1番だけを見ましたが動物園では、見かけませんでした。ナベコウが昨年繁殖したとのこと計4羽いました。



上海動物園で出産したアジアゾウ

鳴禽舎では多くの小鳥たちがやかましくさえずっていてまさに声のボリュームで見せるという感じでした。サイチョウ類、カンムリバトが多く飼育されていたことも立派でした。レッサーパンダは7頭が飼育され高い木に登ったりおりたりしているところでした。すぐ近くに、ジャイアントパンダ舎があり、3頭のパンダを飼育中で、1頭が若く、1頭は老齢ということで、若い1頭が広い運動場で遊んでいるのを見ました。運動場は、みどりの草が生えており、寝室

や観客通路も広く、運動場が大小2つある北京動物園のパンダ舎よりずっと立派だと感じました。ただ上海では、パンダの繁殖はまだないとのことでした。

アシカは、現在は2年前に大阪から贈った雄と、10年前に贈った雌が各1匹づついるだけで、広い2つのプールでは別々に飼育中で、若い雌を受け入れたいようでした。

キリンは、大阪から贈った1番と横浜からの1頭とがいましたが、現在、大阪からの雌が妊娠中で、まもなく出産するだろうとのこと、早く朗報が聞きたいものです。

ゾウは、雲南象で、広い堀にかこまれた放飼場が2つに仕切られており、成獣1番のほかに6才の雌と、16カ月の雌の子供2頭がいました。いずれもここで生まれたもので、現在16カ月の子ゾウを離乳中で舎外に連れ出して青草を与えていました。

トラ、ライオンの放飼場は、半円形に広く、8m幅の水濠に囲まれていました。擁壁は5mでうち水を2mの深さにはっていました。寝室側の壁は凝岩ですが、夏ヅタがは



トラの説明板

つぎきれいな緑となっていたのが印象的でした。トラはベンガルと東北トラが別々に放飼されていました。類人猿舎は、広く立派なものでしたがチンパンジーが4頭と、オランウータンの幼獣2頭のみでゴリラはいませんでした。最近サンフランシスコ市と動物交流を行ない、ユキヒョウを贈ってこの若いオランウータンを受けたとのことでした。



ターキン

カバは、5頭もいて繁殖しているようでした。マトラカモシカ、ゴシカ、ゴベットターキンというような、カモシカ類も多数見られました。また、マエガミジカも繁殖していました。ただ広くて小中獣舎、サルアパート、爬虫類舎などは、見のこしてしまっただけで、女性のキーパーが目立ったのでたずねてみると、130人のキーパーのうち、60人が女性で、鳥類の飼育では3分の2が女性とのことでした。(つづく)

(文・飼育課:樽本 勲 写真・飼育課:農本武志)

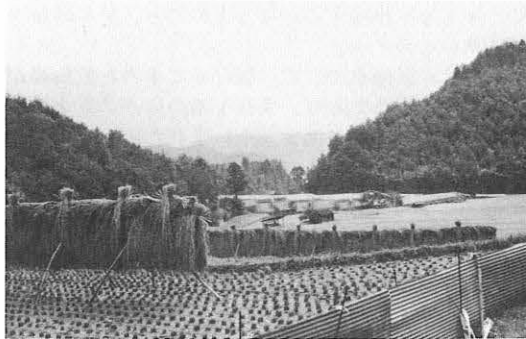
里山の動物

「大阪府下に生息する哺乳動物の現状」

木下陸男

*「里山」とは

里山という言葉は古くから人々によって使われ、「ふるさとの山」に通じるなつかしい響きがあります。ところが、この「里山」についての確かな定義はど



シン垣をめぐらした「里」の水田

こにも見あたりません。国文学者がなまけていたのかどうかは別にして、それほど人々によって、また地域によっても多様なイメージを持つ言葉なのかも知れません。

「里山」は水田耕作を行う人々の集落である「サト＝里」と自然に代表される「ヤマ＝山」との単なる組み合わせではなく、その言葉の中には2000年に及ぶ農耕文化の歴史がぎざまれています。

かつて農耕民族であった私達の祖先が水田稲作農耕＝米づくりを営む中で、水田への施肥のための落葉かきや下草刈を行ったり、薪や炭を焼くための専用林として利用してきた林で、いわゆる「里」の人々が日常的に利用、保持してきた身近かな山々、す



クヌギ、コナラからなる雑木林＝里山

なわち「里」の人々と自然とのかかわりの中で生じた山々であるといえます。したがって、その熊様は人々の歴史とともに変遷しながら、その地域に暮らす人々と自然が織りなす独特の風土、景観をつくり

上げています。

私達が暮らしている近畿地方の里山はそのほとんどがアカマツ林とクヌギ、コナラを含む雑木林に代表されます。これらの林の中には様々な生き物が暮らしています。キツネ、タヌキ、リスなどの哺乳動物ばかりでなく、昆虫やクモ、ヘビに至るまで多くの生物が棲みついています。また同時にそこに生息する動物も植物も過去の人間活動の強い影響を受けており、「人と自然のかかわりの歴史」において適応、共存してきた歴史的産物ともいえます。

*「里山」動物調査

私達は野生動物保護のための啓蒙と、その実際的な活動の出来るボランティアの養成を目的に、昭和52年から「哺乳動物」をテーマにした市民講座（ナチュラリスト養成講座）を開きました。そしてこの講座修了者

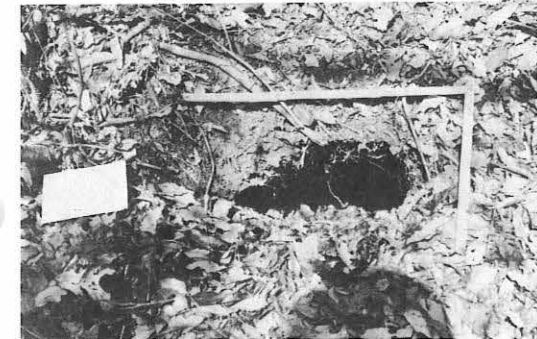
をリーダーとして昨年5月と本年4月に一般市民参加による「里山の動物調査」を行いました。本年は285名（昨年210名）の参加者によって府下10地域を対象に、里山に棲む動物のフィールドサイン（足跡、食痕、フンなどの痕跡）を調べる方法で一斉調査を行いました。その結果を過去のデータを参考にまとめると次のような状況であるといえます。

(i) 大阪府域に生息する哺乳動物は現在およそ25種と思われませんが、この中で人間に密着してそのおこぼれで生活している数種のネズミと、外国から人為的に持ち込まれたタイワンリスやチョウセンイタチなどと、空域を生活の場とするコウモリ類を除く他のほとんどの動物は、府域周辺に広がるアカマツ林とクヌギ、コナラを含む雑木林に生息しています。

(ii) シカは能勢、箕面など北摂地域の一部の限られた地域に生息しており、生息場所の孤立化や分断、さらに奥地の一斉造林などによって生息環境はますます悪くなっています。また一部地域ではヒノキなどの植林幼齢木に食害が発生し、問題となっています。イノシシについても分布は府下全山系に及ぶものの生息状況についてはシカと同様に減少傾向にあります。

(iii) キツネは北摂地域ではほぼ全域で確認されていますが数は多くなく、泉南地域では一徳防山周辺に少数が生息するものの安定していません。中でも能勢地方のキツネには廃鶏に依存する個体があります。

特にタヌキは北摂、生駒＝金剛、泉の三山系のどの調査区でも生息しているが、いずれの地域でもフンの中にビニール、銀紙、輪ゴムなどの人工物が含まれており、山際の人家や野外活動施設などの残飯やハイカーの捨てるゴミをかなり採食していると思われる。



北摂＝妙見山麓で発見されたキツネの巣穴

特にタヌキは北摂、生駒＝金剛、泉の三山系のどの調査区でも生息しているが、いずれの地域でもフンの中にビニール、銀紙、輪ゴムなどの人工物が含まれており、山際の人家や野外活動施設などの残飯やハイカーの捨てるゴミをかなり採食していると思われる。

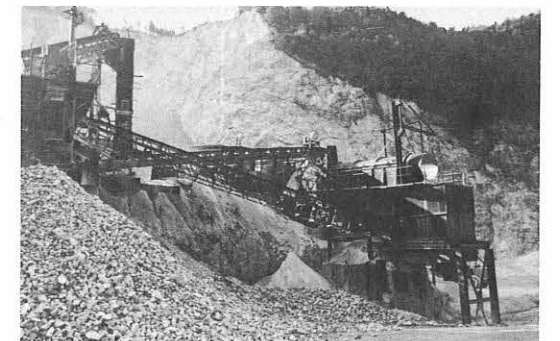
(iv) テン、ホンドリス、ノウサギの3種はいずれの調査区でも確認されていますが、テン（フン）は生態的な習性から発見されやすい事や行動域が広い事などによる可能性が高い。ホンドリスは赤松林への依存が強く各山系の尾根筋のアカマツ林や隣接する雑木林などでよく発見されます。その他、アナグマは泉南と北生駒で各一件の捕獲ニュースがありますが痕跡調査では発見されていない。ムササビは北摂と泉南の社寺林に少数が生息しています。

以上の外にイタチ、アカネズミ、カヤネズミの巣ヒメネズミ、ヒミズ、モグラの死体などが数体発見されており、今回の方法ではつかむ事がむずかしいコウモリ類などを加えると府下の「里山」にはおよそ18～20種の哺乳動物が生息していると思われます。これはツキノワグマやカモシカ、ヤマネなどをのぞく近畿地方に生息するほとんどの種を含むものではありますが、アナグマ、ムササビなど絶滅寸前のももあり、近郊農村の都市化や里山の開発などによ

てシカを始めとするキツネ、タヌキ、テン、リスなども絶滅への道を歩みつつあるといえます。

「里山」の保全と市民による街づくり

今、大阪府下に生息する哺乳動物の中でシカ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ、テン、ムササビ、リスなど主としてアカマツ林やクヌギ、コナラ林、大木のある社寺林といった農耕文化と深くかわる「鎮守の森」や「里山」を主要な生息場所とする動物たちは、都市の急激な膨脹による宅地開発やゴルフ場、ダム建設などによって生活の場を奪われ、一方ではレジャー化した狩猟者に追われるといった二重、三重の苦難を強いられています。



切りくずされる「里山」

「里山」の保全はこれら野生動物にとって大切な暮らしの場であるだけでなく、私達人間にとっても水源の確保、防災、土壌の生産、様々な生物の保存などの役割と共に都市に住む人々にとってはレクリエーションや保養の場としても重要です。そしてなによりも豊かなみどりは都市の再興や街づくりにとってかかすことの出来ない要素となります。「豊かな自然の中で暮らしたい」と願う市民の一人一人がこの「里山」を介して「人間と自然のかかわりの歴史」を学び、里山のもつ様々な機能を都市住民が引きつぎ、育てることによって、より豊かな自然環境を日常の生活圏の中に作り上げる事が大切です。そのためには市民一人一人が「街づくり」のための設計図を持つこと、そしてなによりも多くの市民が身近な自然である「里山」となんらかのかかわりを持つ事、それが「里山」動物調査なのです。

大阪府下に生息するシカ、キツネ、タヌキなどの野生動物を絶滅の危機から救うには、その主要な生息場所である「里山」を保全し、そこにおいて人間との共存を求める以外に道はないのではないのでしょうか。

(大阪自然環境保全協会理事)

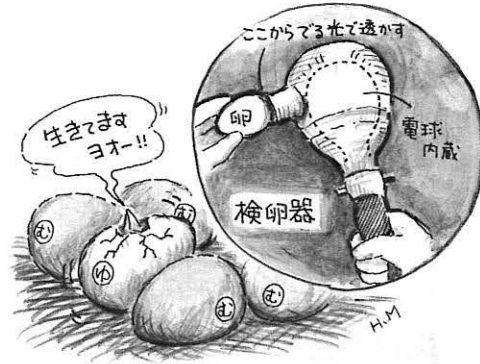
動物相談室 ⑦

★ 鳥の卵の有精卵の見分け方について教えてください。
堺市 杉山 広

家で飼われている文鳥やチャボなどが、卵を産んで親があたためているのにいつまでたってもフ化しないという事がよくあります。無精卵だったというわけですね。オスとメスの区別のしにくい鳥では沢山卵を産んでいるのにフ化せず、調べてみるとメスばかりだったようなことは動物園でもしばしばありました。キジなどの卵は図のような検卵器で調べますが、有精卵の場合は1週間ぐらいで血管が発達してくるのでわかります。しかし動物園で飼育しているヒクイドリや、エミューの卵は色も濃くて検卵器でみてもわかりません。そこで、予定日一週間前位になると水平な場所に卵をおいてみます。有精卵の場

合はじっとみていると、時々卵がピクピクッと動き、さらに、フ化前2~3日すれば卵の中からヒナの声が聞こえてきてフ化が近くなったことを知ることができます。

回答・大野 尊信
イラスト・松山 浩美



★ ワシとタカはどう違うのですか
西宮市 中西とし子



流水の上で翼を休めるオジロワシや、餌物をねらうクマタカのするどい目、まさしく鳥の王者のふん囲気がありますね。そんなわけで、ワシやタカ等は猛禽類などとも呼ばれています。でも、分類学的には共にワシタカ目ワシタカ科に属して違いはありません。ただ、一般的には大型のものをワシ、そして小型のものにタカという名前がついているようです。しかし、例外もあってカンムリワシはクマタカよりも小型の種類です。なお、ワシやタカという言葉は共に早いという意味の言語からできているようです。

回答・大野 尊信
イラスト・松山 浩美

第10回天王寺動物園サマースクールのお知らせ

(自然史博物館との共催)

夏休みの子供たちのために動物園で動物の観察や飼育係の仕事を見学し動物の勉強をします。対象は小学生(4・5・6年)のみです。次のつごうのよい組を1つえらんで下さい。

- 日時 第1組 7月21日(土)~7月23日(月)
- 第2組 7月25日(水)~7月27日(金)
- 第3組 7月28日(土)~7月30日(月)

参加資格: 小学校4・5・6年生、保護者の同意があって動物園まで毎日通える者、定員は各組90名。

申し込み: 6月30日までに、往復ハガキで往信ハガキに①サマースクール第〇組に参加希望、②住所・電

話番号、③学校名・学年、④氏名・性別、⑤保護者氏名を記入し、返信用ハガキのおもてに自分の住所・氏名を記入。ハガキは1通に1人のみ記入。

申し込み先: 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 大阪市天王寺動物園

参加者決定: 7月1日に抽選し、結果を連絡します。

参加経費: 1人1,000円。(テキスト・参加章・写真・修了証などの費用)

その他: 保護者の参加はできません。送迎だけにして下さい。もし本人が参加できなくなったときは、連絡して下さい。

動物園ニュース

§ すすくすく育つハイロカンガルーの赤ちゃん

2月号でハイロカンガルーの赤ちゃん誕生のニュースをお知らせしましたが、袋の中の赤ちゃんは順調に成長し、4月20日から母親の袋から顔を出すようになりました。暖かい日ざしにさそわれるようにだんだん顔を出す時間が長くなっています。



§ クロサイ父子の同居

昨年7月に生まれたクロサイの“サイ太”はすっかり大きくなり、4月9日初めて父親との同居を試みましたが、時々父親と角つきあわせをしたりしていますが、大きな闘争もなく同居は無事成功しました。春の日ざしのもと一家3頭仲良く日なたぼっこしている姿を御覧いただくことができます。

§ シマウマの赤ちゃん誕生

5月4日、グラントシマウマの雄の赤ちゃんが生まれました。母親の“キャンデー”は一昨年5月に続き2産目です。出産当初、子供が外周の堀に落ちたりして心配させましたが、その後大きな問題もなく無事に育っています。これで、シマウマ一家は5頭になりました。

§ サル類の出産

サルアパートでは、5月7日にフサオマキザルが出産しました。今回で7産目のベテランママですのでじょうずに子供を育てています。



また、ニホンザルの繁殖も順調で、今年も4月25日、28日、5月13日、14日、15日に生まれています。これでニホンザルの群れも31頭になりました。

§ 鳥類の産卵、ふ化たけなわ

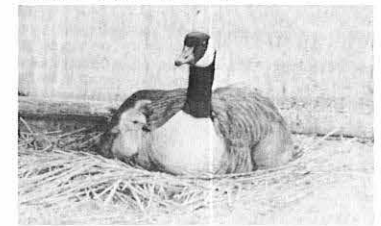
春たけなわとなり、鳥類の産卵ふ化も本格的になりました。小禽放養舎で毎年ふ化しているシュバシコウは、4月下旬からふ化が始まり、5月13日現在

現在の飼育動物数

(1984年4月30日現在)

哺乳類	9目	98種	362点
鳥類	20目	198種	641点
爬虫類	3目	36種	110点
計	32目	332種	1,113点

3巣で合計6羽のヒナが育成しています。また、月日以来抱卵を続けてきたカナダガンが5月11日に4羽ふ化しました。カナダガンの自然ふ化は当園では初めての事です。



一方、新築なったキジ舎では、5月11日1羽のハイロコジヤクがふ化しました。ベニジュケイ、インドミノキジなども抱

卵中ですので、まもなくふ化することでしょう。

また、キングペンギンが4月26日、昨年に続きふ化しました。昨年とは別のペアですが、じょうずにヒナを育てています。昨年同様親以外のペンギンがヒナを抱いたり給餌したりする行動が観察されています。

§ 春の動物園祭

4月29日から5月6日まで“春の動物園祭”が開催されました。ステージでの活動やランティアによる動物クイズなどがくりひろげられました。また期間中に、北園展示館で「写真とポスターで見るコアラ展」を開催しました。

§ 愛鳥週間

5月10日からの愛鳥週間にちなみ大阪府との共催で「野鳥展」を開催しました。モズの生態写真や当園で飼育されている日本産の鳥の写真パネルの展示、ビデオの放映などを行い5月13日には園内探鳥会と「野鳥なんでも相談も行ないました。

★ 動物園協会へ寄付を頂きました。

5月1日、市長応接室において、さる昭和57年3月に引続いて4回目の寄付を頂きました。



金額 20万円

寄付者 大阪府化成工業協同組合
大阪金属工業協同組合

理事長 山本 一さま

これで、今回分を併せて合計70万円に達し、当協会ではご厚志に報いるため、事業基金として、有益に使わせて頂きます。

ありがとうございました。協会事務局

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。6月までの休園日は下記の通りです。

6月18日(月)、7月16日(月)、8月20日(月)、開園時間は午前9時30分~午後5時で、午後4時に切符売止めになります。

すてき満喫

近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店 お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京路店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

オールカラー

むし

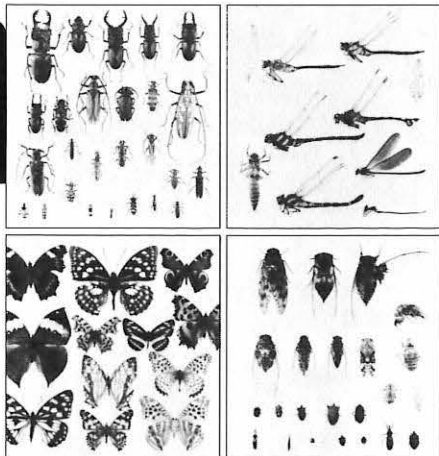
くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。
きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

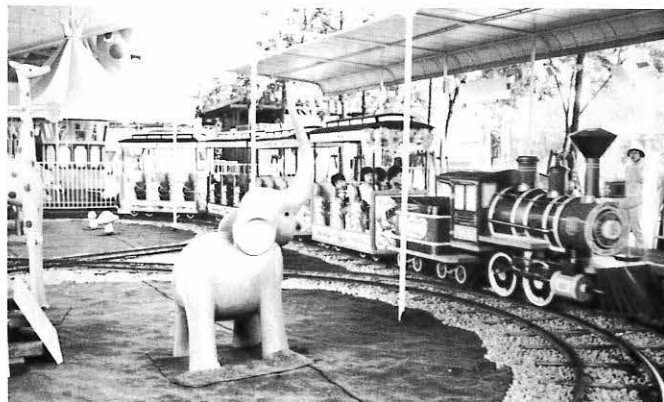


85変形
84ページ 580円

ひかりのくに株式会社
〒543大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購入をお奨めします。
年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ
TEL 06-771-0201

世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)

1600 新登場!

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



フジカラー HR 1600

ISO1600/33° 135-24枚撮

◎ 動物のことなら あらゆることにお役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写真会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達

自然から学ぶおもいやり

株式会社 **アニマ**

(いきもの110ばん)

☎ 06-863-1025 (代表)

〒561 豊中市利倉2丁目22-2

全国の愛犬家の共感を呼ぶ
無比の愛犬歌集（絶賛再版）

歌集 犬の歌

動物文学会主宰
平岩米吉著
(天金美装・箱入
B6判・270頁
2500円・〒不要
直接申込ごう)

著者が、約40年の間に、共に暮した70余頭の
犬の生と死を歌った419首を収録。同時に、そ
の誕生より老齢に至る写真47図を収め、犬の
一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定
全国学校図書館選定

狼

その生態と歴史
犬科生態研究所長
平岩米吉著

A5判・320頁・
口絵挿絵等140図
定価2800円・〒300円

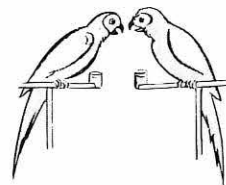
待望の日本狼の正史ついに完成！
〔改訂四版〕

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著
者が、数十年にわたり収集した正確な資
料を、生態学の目をもって描いた空前の書。
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古
代より、のちには病狼と恐れられ、やが
て絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

- | | |
|------------|----------|
| 序狼への幻想と現実 | 5 狼の伝説 |
| 1 犬科の分類と解説 | 6 日本狼の特徴 |
| 2 犬と狼の関係 | 7 日本狼の絶滅 |
| 3 日本狼の歴史 | 終狼を飼った人々 |
| 4 狼狩の記録 | |

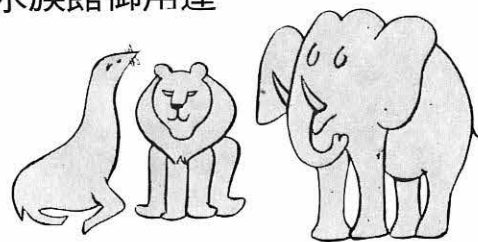
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

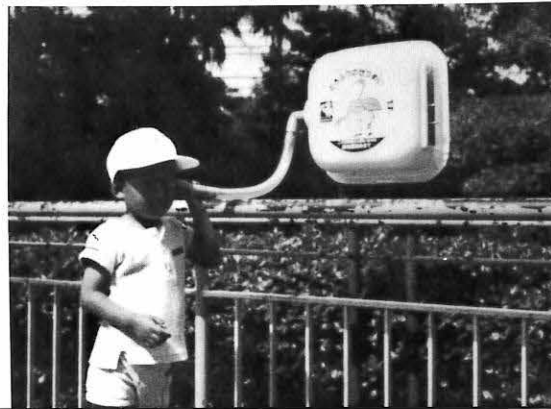
- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

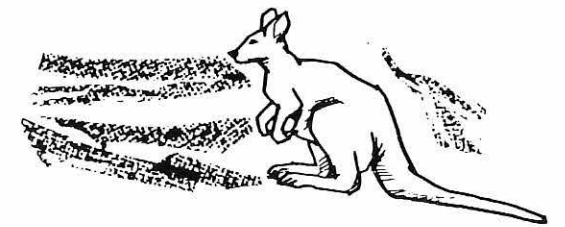
本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

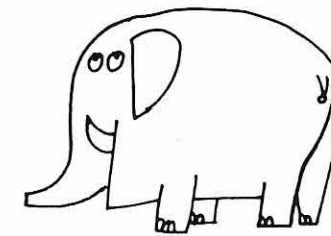


……………ぼっちゃん
……おじょうちゃん
どうぶつえんへ……………
いらっしゃいませ……………
ごきゅうけいは……………
おしょくじは……………

動物園内北園 中央売店

☎ (06) 771-0973

天王寺動物園内

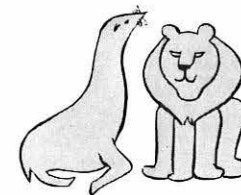


南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますので説明
に伺いました際は、
よろしく願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和59年6月15日発行(毎月1回15日発行)

第20巻 第6号 (通巻226号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪 (06) 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続 (12部) 1,100円 (送料共)

編集委員

土井 良彦	伊東 重朗	小出 雅三	樽本 勲	中川 哲男	前田 豊彦
宮下 実	長瀬健二郎	榎原 安昭	森本 委利	大野 尊信	葭谷 文彦
農本 武志	野口 秀高	仲谷 登	柴田 総	兼坂 雅浩	堀 弘
大川 光雄					